

(様式 1)

令和7年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)

富山県立山カルデラ砂防博物館 砂防課

2 施設所在地

中新川郡立山町芦嶺寺字ブナ坂68

3 施設設置年度

平成10 年度

4 設置目的

常願寺川の源流部にある火山活動と侵食作用によって形成された立山カルデラの峻厳な自然及び県土の保全のため行われてきた砂防事業を紹介し、災害を克服してきた人間の努力と英知について県民の理解を深めることを目的とする。

5 施設概要

延床面積 2, 217. 42 m² 建築面積 1, 984. 6 m²

主な施設

エントランスホール 約250 m²
 立山カルデラ展示室 約468 m²
 大型映像ホール 約213 m²
 企画展示室 約60 m²
 図書室 約83 m²

6 指定管理者

公益財団法人立山カルデラ砂防博物館

7 指定期間

3 年

令和6年4月1日

～

令和9年3月31日

8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人） ※この他、参考となる指標があれば追加

R3	R4	R5	R6	R7
18,480	25,832	27,861	35,206	38,911

(2) 利用（使用）料金収入（千円）

R3	R4	R5	R6	R7
678	961	934	1,203	1,354

(3) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

R3	R4	R5	R6	R7
—	—	—	—	—

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

利用者数・収入の確保のため、学校・観光業者・町等、関係機関と連携を図るとともに、マスコミ等への情報提供を行うなど、積極的に施設及び事業のPRを実施している。

入館者数は、立山黒部アルペンルートにおける台湾や中国などを中心とした外国人観光客の増加と連動して平成27年度より増加傾向であったが、令和2年度以降新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大幅に減少した。ただし、令和4年度以降は回復してきている。

収入は、平成28年度より県内の文化施設について、高齢者(70歳以上)、大学生や多子世帯に対し利用料が減免されるようになったことなどから、大きく減少した。ただし、令和4年度以降は回復してきている。

(2) サービス向上に向けた取組み

① 開館時間の拡大(通常9時30分開館)

GWは8時30分、夏季(夏休み)期間、秋の行楽シーズンは9時としている。

② 休館日の返上(通常、月曜及び祝翌日休館)

GW、夏休み期間は休館日を設けず、開館した。

③ 移動博物館

学芸員等が積極的に館外へ出向き、講座等を通して、博物館のPRを行い、来館者の拡大を図っている。

④ 展示室等の多言語対応

外国人観光客の増加に対応するため、平成28年度から映像ホールにおける3D映像の外国語音声レシーバーの貸出しや、常設展示室の外国語解説タブレットの貸出しを行っている。また令和5年度より日本語字幕付の映像上映も可能となった。

⑤ 閑散期(12～3月)対策

1～3月に開催する写真展・特別展の関連イベントとしてオリジナルトートバッグをつくるワークショップを開催している。

⑥ サテライト展示

令和4年度から、富山県防災危機管理センターにて立山カルデラの歴史等を紹介する展示を行っている。

(3) 利用促進(収入増)に向けた取組み

- ・開館時間の拡大、休館日の臨時開館
- ・学芸課職員の学術研究の成果発表
- ・博物館ホームページやSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)による情報発信
- ・繁忙期に解説ボランティア(友の会解説部会)による館内外の解説ツアーの実施
- ・立山駅やロータリーでの誘導看板設置
- ・小中学生向けパンフレットの配布、「子ども図書コーナー」設置

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

① アンケート結果

実施方法	実施期間：令和7年9月2日～10月26日 アンケート記入場所設置
回答者数	回答者数：339人
結果	満足：常設展示93%、企画展示85%、映像87%
結果を踏まえた改善事項	展示室への経路案内が小さい、展示を見る時間が足りないという意見があったため、HPに掲載しているモデルコースを館内に掲示した。

② その他利用者の声を反映させる取組み

- ・ 博物館運営委員会の開催
- ・ 受付監視を行っているミュージアムガイドへの聞き取り

③ 主な苦情と対応

特になし

(5) 個人情報保護の取組み

個人情報保護規程を定めて職員に周知を図り、適正に個人情報を取り扱っている。

(6) 関係団体との連携

地元宿泊施設や地元鉄道会社、立山町と協力し、事業のPRを行っている。また、地元行事に積極的に参加している。その他、立山砂防女性サロンの会が製作したかたりべ絵本について、普及協力をしている。

(7) 施設・設備の維持管理

専門保守業者による保守点検とは別に、職員による自主点検を毎月行うなど、適正に管理されている。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

「立山カルデラ砂防体験学習会」安全対策会議を開催し、安全対策及び緊急事態発生時の対応について関係機関との連携を行う等、非常時のマニュアルや連絡表を作成するとともに、防災訓練の実施や各種機器の点検なども着実に実施されている。

10 所管課の管理運営確認状況

- ①定期報告の受理
- ②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③個人情報に関するトラブルの有無
- ④危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有／無	回数(有の場合)
有	12
有	5
無	—
有	3

【トラブルの具体的内容と対応】

大雪で臨時休館の検討が必要となった際は、速やかに情報共有が行われた。

11 今後の課題等（収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載）

近年、立山を訪れる外国人観光客の増加が顕著に見られるため、平成28年度から大型映像の外国語音声レシーバー及び常設展示室の外国語解説タブレットの貸し出しを行っている。加えて、平成30年度からは立山駅に誘導看板(外国語表記付)を設置した。引き続き外国人観光客の対応の充実、満足度の高いサービスの提供に努める必要がある。

開館30周年(令和10年度)に向け、サービス提供の充実や立山観光に付随した来館だけではなく、博物館を目的として足を運んでもらうための工夫が必要であることから、県防災危機管理センターのサテライト展示を有効活用するほか、友の会解説部会との連携を強化し、来館者の満足度を高め、何度も訪れたいと思っていただける努力をしてもらいたい。来館者のニーズ(満足度を上げるために何が必要か)をより詳細に把握・分析するとともに、継続して広報活動(特にSNSを利用した情報発信)、イベント等の実施検討等に努める必要がある。また、地元や関係団体と連携を深め、「地域をつなぐ文化的ハブ」として機能することが求められる。

そのほか、施設が老朽化していることから、小修繕を計画的に行い、設備の長寿命化を図ってほしい。

今後とも、経費削減を念頭に業務内容を再点検するとともに、来館者や関係団体からの意見を反映させ、利用者の満足度が高まるよう努めてもらいたい。